

環境経営 レポート

2025

『一人ひとりの意識改革・新たな可能性に挑戦します』

対象期間: 2024年5月～2025年4月
2025年8月1日 発行

博多金物株式会社

目次

会社概要.....	1
組織図.....	2
環境経営方針.....	3
認定証・許可一覧.....	4
施設・設備の内容.....	5
処理工程図①.....	6
処理工程図②.....	7
受託した産業廃棄物の実績.....	8
環境経営目標.....	9
2024年度 環境経営計画と取組結果の評価.....	10
2024年度 環境経営目標の実績・取組結果とその評価.....	11
2025年度 環境経営目標.....	12
環境関連法規等の遵守結果.....	13
社会貢献活動（ボランティア活動への参加等）.....	13
社会貢献活動等.....	14
代表者による全体評価と見直し結果.....	15

博多金物 SDGs宣言

項目	関連するSDGsのゴール	SDGs達成に向けた取組
自然環境・生物多様性の保全	  	金属スクラップの加工処理において廃棄物の削減及びリサイクルの促進を実施しています。産業廃棄物の中間処理において、資源循環型企業を目指し、再資源化率の向上に努めています。
責任ある企業行動	  	環境省制定の「エコアクション21」の認定を受け、社内照明のLED化や収集運搬車両のエコドライブを実施し、会社全体で電気・燃料の消費に伴うCO ₂ の削減に取り組んでいます。
地域への貢献	  	地域雇用を積極的に行い、安定した雇用の創出・働きやすい職場づくりを実現しています。また、消防団協力事業所認定を受け、地域の有事の際はいかなる時も駆けつけます。

企業活動を通じて社会課題の解決に取り組み、SDGs達成に貢献するため、2024年1月にSDGs宣言を行いました。



会社概要



1. 事業者名および代表者名

博多金物 株式会社

代表取締役 渡邊 亮介

2. 所在地

本社事務所 〒882-0024
宮崎県延岡市大武町 39 番地 71
リサイクルセンター 宮崎県延岡市大武町 39 番地 69
破 碎 工 場 宮崎県延岡市大武町 39 番地 68

3. 環境管理責任者 事務局 連絡先

代表取締役 渡 邊 亮 介
総 務 部 肥 田 野 彩 乃
肥 田 野 彩 乃 (EA-21 事務局)
TEL 0982-35-6385
FAX 0982-35-6387
E-mail hidano@hakatakanamono.jp

4. 創業年月日 昭和33年 10 月17日

5. エコアクション 21 認証・登録 認証登録日 2012年11月2日
認証・登録番号 0008854 更新登録日 2024 年11月2日
有効期限 2026 年11月1日
範 囲 全社・全組織・全活動

6. 事業の内容

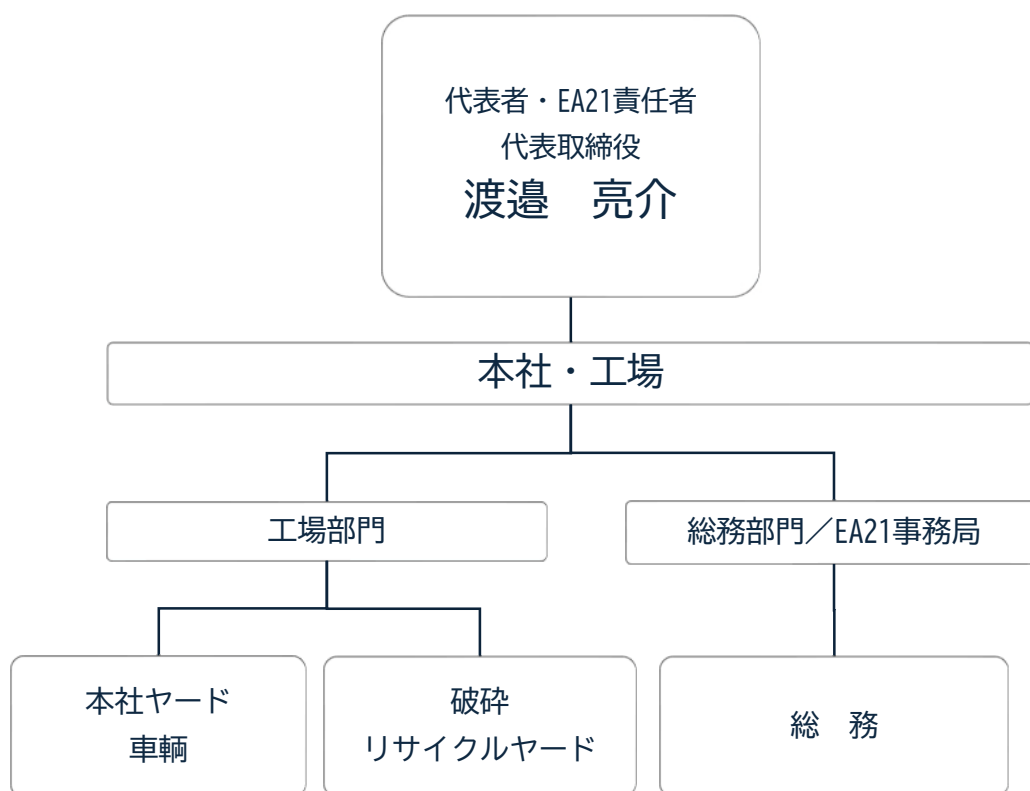
- 産業廃棄物収集運搬業(特別管理産業廃棄物を含む)
- 産業廃棄物処分業(中間処理業)
- 金属スクラップ加工処理業
- 故非鉄金属・故機械・電気器具類の売買業
- 重量物計量証明事業・計量器修理事業

7. 事業規模

項目	単位	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
資本金	万円	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
売上高	百万円	1,244	2,247	2,043	2,114	2,207
従業員数	人	17	17	17	19	19
床面積	m ²	3,054	3,054	3,054	3,054	3,054
敷地面積	m ²	9,409	9,409	9,409	9,409	9,409



組 織 図



	役割・責任・権限
代表者 社長 渡邊 亮介	1. 経営資源の準備 2. 推進組織の決定 3. 環境方針の策定 4. 環境目標及び環境活動計画の承認 5. 定期的な全体の評価と見直し指示 6. 環境活動レポートの承認
EA21 責任者 渡邊 亮介	1. EA21システムの確立、実施推進、維持管理 2. 環境への負荷及び取り組みへの自己チェックの承認 3. システム全体の運用状況を社長へ報告する 4. 環境目標及び環境活動計画の策定 5. 環境活動レポートの作成 6. EA21に関する実績把握と報告 7. 利害関係者からの苦情要望等の処理と連絡 8. 環境目標/活動計画結果管理の定期的な評価 9. 問題点発生時の是正/予防処置指示と内容承認 10. 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認 11. 教育、訓練計画の策定と実施(緊急時対応訓練含む)
工場部門 本社ヤード・車輛担当	1. 車輛の点検 2. 運行記録管理 3. 雨水貯蓄管理
工場部門 破碎／リサイクルヤード担当	1. 破碎工場電気使用法管理 2. 重機の点検 3. 環境整備・訓練
総務部門／EA21 事務局	1. 環境活動計画の実施 2. 問題点の是正処置 3. 環境活動の実施 4. 環境文書及び記録の作成、管理

環境経営方針

基本理念

博多金物株式会社は、循環型社会の形成と持続可能な発展のために環境の保全に努め、環境にやさしい企業活動により地域に貢献すると同時に、社員の生活が幸福なものになるよう企業活動を行うことを基本理念とする。

基本方針

1. 博多金物株式会社は、金属スクラップ及び産業廃棄物の処理事業を行う中で可能な限りのリサイクルに努め、環境保全に貢献する。
2. 環境保全活動では、自社の特徴である金属スクラップの加工処理を中心に次の項目に取り組む。
 - ① 電気・燃料の消費に伴う二酸化炭素の削減及び節水への意識をもちつつ、その使用に対する経営効果の向上を目指す。
 - ② 廃棄物の削減及びリサイクルの促進に努める。
 - ③ 現場改善を日々行い、効率的かつ環境負荷の少ないプロセスの向上を推進する。
3. 受託した産業廃棄物の中間処理では、再資源化の向上に努め、収集運搬では、収集運搬車両のエコドライブを実践し、省エネと排気ガスの抑制に取り組む。
4. 環境に関する法令及び法規制を遵守する。
5. 環境経営方針は、当社のために働くすべての人にも周知を図り、一般の人々が入手可能なようにする。
6. 環境への取り組みについて、環境活動レポートを作成し公表する。

制定日 平成 24年4月17日

改定日 令和 7年 6月1日

博多金物株式会社

代表取締役

渡邊 亮介



認定証・許可一覧

■ 古物商

交付	登録番号	事業の区分
昭和40年4月8日	95111000 第3384号	行商 = する

■ 計量証明事業・計量器修理事業

	登録	登録番号	事業の区分
計量証明事業	平成元年 6 月 6 日	第 43 号（宮崎県知事）	質量にかかる計量証明の事業
計量器修理事業	昭和63年 5 月 31 日	第 152 号（宮崎県知事）	質量計第四類

■ 産業廃棄物

中間処理事業

電子マニフェスト加入者番号【処分業 3011811】

許可日	許可番号	有効期限	事業の区分
令和 6 年 8 月 25 日	第 04528047880 号 （宮崎県知事）	令和 11 年 8 月 24 日	中間処理業 （圧縮・切断、剥離）
種 類			
《圧縮・切断》	金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、ゴムくず、廃プラスチック類、木くず（5種類）		
《剥離》	金属くず、廃プラスチック類（2種類）		

収集運搬事業

電子マニフェスト加入者番号【収集運搬業 2001394】

	宮崎県	山口県	北九州市
許可日	令和 4 年 5 月 30 日	令和 6 年 9 月 17 日	令和 5 年 6 月 18 日
許可番号	第 04518047880 号 （宮崎県知事）	第 03500047880 号 （山口県知事）	第 07600047880 号 （北九州市長）
有効期限	令和 9 年 5 月 29 日	令和 11 年 9 月 14 日	令和 10 年 6 月 17 日
事業の範囲	積替え・保管の有無 あり*1	積替え・保管の有無 なし	積替え・保管の有無 なし
種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリート及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、ばいじん(15種類)		

*1 積み替え保管の上限

- ①廃プラスチック類、金属くず（廃バッテリーに限る。）9.41 m³ ②金属くず、汚泥（廃乾電池に限る。）0.056 m³
③ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、金属くず（廃蛍光灯に限る。）0.19 m³

特別管理産業廃棄物 収集運搬事業

	宮崎県	山口県	北九州市
許可日	令和 4 年 5 月 21 日	令和 5 年 3 月 8 日	令和 5 年 6 月 18 日
許可番号	第 04568047880 号 （宮崎県知事）	第 03550047880 号 （山口県知事）	第 07650047880 号 （北九州市長）
有効期限	令和 9 年 5 月 20 日	令和 10 年 3 月 7 日	令和 10 年 6 月 17 日
事業の範囲	積替え・保管の有無 あり*2	積替え・保管の有無 なし	積替え・保管の有無 なし
種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、ばいじん、廃石綿等 （7種類）		燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、ダスト類（6種類）

*2 積み替え保管の上限

- ①廃酸（廃バッテリーに含まれる水素イオン濃度指数 2.0 以下のもの）9.41 m³
②廃酸（水素イオン濃度指数 2.0 以下のもの）0.4 m³ ③廃アルカリ（水素イオン濃度指数 12.5 以上のもの）0.4 m³

■ 第一種フロン類回収業

登録	登録番号	事業の区分
令和元年 9 月 4 日	第 4570100736 号(宮崎県知事)	第一種フロン類の回収

施設・設備の内容

■ 中間処理施設・能力

種類	所在地	処理能力ほか
圧縮・切断施設	延岡市大武町 39 番地 71	20 t / 日
剥離施設	延岡市大武町 39 番地 69	3 t / 日
積替え保管	延岡市大武町 39 番地 69	容器内保管
	面積	種類
	8.976 m ²	廃バッテリー
	2.8985 m ²	廃乾電池
	2.8985 m ²	廃蛍光管
	8.976 m ²	廃酸(廃バッテリーに含まれるもの)
	3.2725 m ²	廃酸(水素イオン濃度指数 2.0 以下)
特別管理 産業廃棄物	2.5245 m ²	廃アルカリ(水素イオン濃度指数 12.5 以上)
		保管上限
		9.41 m ³
		0.056 m ³
		0.19 m ³
		9.41 m ³
		0.4 m ³
		0.4 m ³



■ 収集・運搬業用車両

登録番号	最大積載量	車両名
宮崎 100 は 4354	14.4t	キャブオーバ
宮崎 100 セ 2032	2.6t	キャブオーバ
宮崎 100 は 908	8.7t	キャブオーバ
宮崎 480 と 9437	0.35t	キャブオーバ
宮崎 400 つ 5418	2.0t	キャブオーバ
宮崎 100 は 2246	8.0t	キャブオーバ
宮崎 581 と 8694	0.35t	ステーションワゴン

登録番号	最大積載量	車両名
宮崎 100 は 846	10.1t	ダンプ
宮崎 100 は 2001	10.1t	ダンプ
宮崎 100 は 4898	9.0t	ダンプ
宮崎 100 は 5139	10.3t	ダンプ
宮崎 100 は 4635	12t	脱着装置付 コンテナ専用車
宮崎 100 セ 5031	3.65t	脱着装置付 コンテナ専用車
宮崎 100 セ 5032	3.65t	脱着装置付 コンテナ専用車
宮崎 100 は 4081	6.6t	脱着装置付 コンテナ専用車

■ 主要設備

本社ヤード	400 t シャープレス	1基	600 t ギロチンシャー	1基
	80 t 電気式計量器	1基	40 t 普通式計量器	1基
	4 t フォークリフト	1基	荷役用グラップルユンボ	1基
	5 t 天井走行クレーン	1基	3 t 天井走行クレーン	1基
	リフティングマグネット	1基	0.1t解体用ユンボ	1基
リサイクル センター	2.8 t 天井走行クレーン	1基	2 t 天井走行クレーン	1基
	30 t 電気式計量器	1基	2.5 t フォークリフト	1基
	1 t フォークリフト	1基	被覆電線解体機	2基
	2 t グラップルリフト	1基		
破碎工場	600型シュレッダー	1基	非鉄選別機	1基
	7.8 t テルハ	1基	1 m ³ ホイルローダー	1基
	0.7 t 解体用ユンボ	1基	0.3 t 解体荷役用ユンボ	1基
	荷役用スクラップハンドラー	1基	リフティングマグネット	1基
	3 t フォークリフト	1基		

処理工程図 ①

【鉄・非鉄加工部門】



分別後、各工場にて製品化処理

【本社工場】

ガス切断・プレス・ギロチン処理による鉄・非鉄の製品化



【リサイクルセンター】

銅線剥離機・手作業による製品化



【破碎工場】

破碎機・非鉄分離機による製品化



2024 年度(2024 年 5 月～2025 年 4 月)

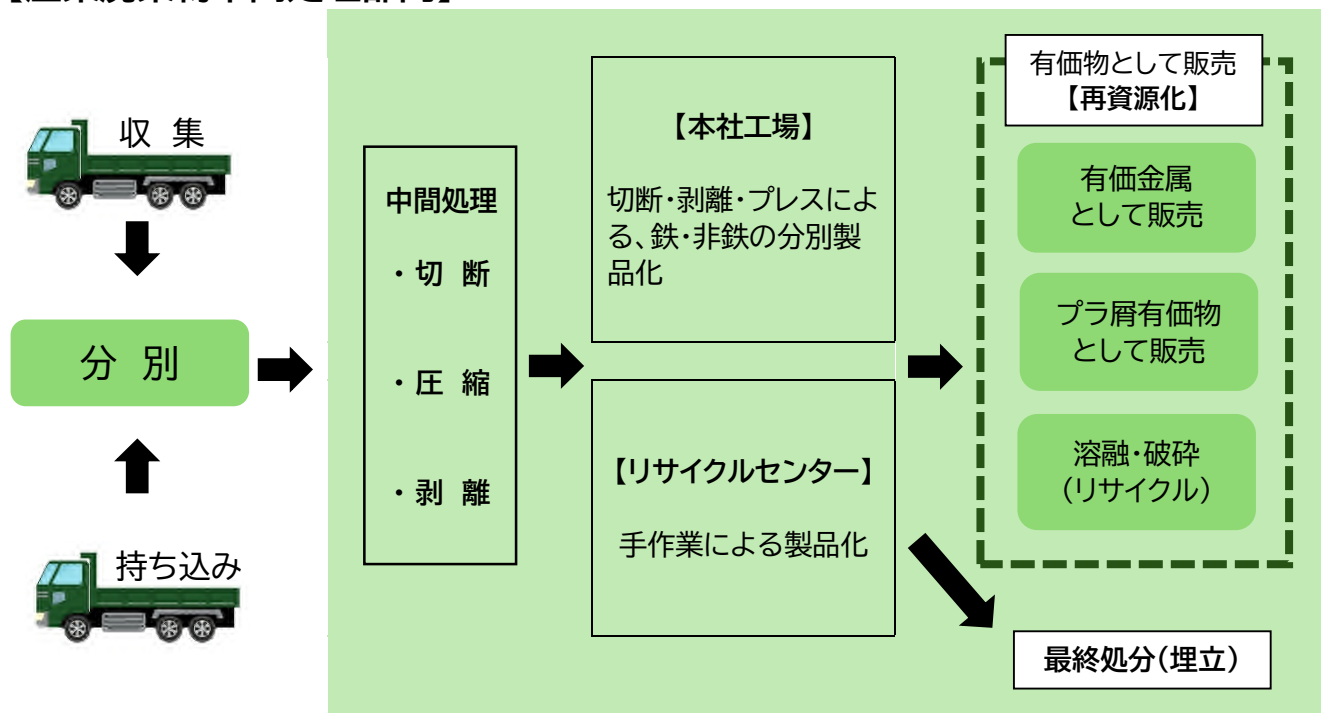
再生資源回収・収集・再資源化実績

再生資源(金属)の 回収・収集等	回収・収集等運搬量	
	30,930.91 t	
再生資源(金属)の 再資源化等	処理または加工等方法	再資源化量
	切断・圧縮・破碎・剥離	30,387.43 t



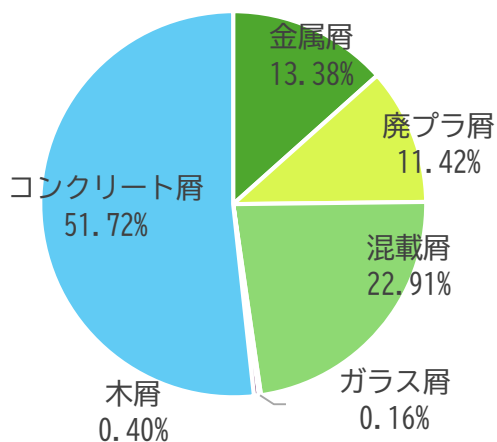
処 理 工 程 図 ②

【産業廃棄物中間処理部門】



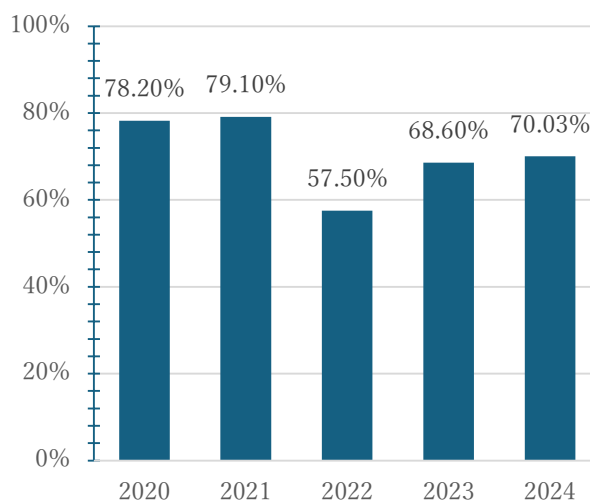
【2024 年度中間処理品目】

2024 年 5 月～2025年5月



今年度は、工事の関係でコンクリート付の金属が大量に搬入されました。手作業で丁寧に分別したのち、金属は製品化处理を行い完全リサイクル。コンクリートは切断処理後、最終処分（リサイクル業者）へ出荷されます。

【中間処理後の再資源化率】



今年度の再資源化率は 70.03%。目標の 68.60%を達成することが出来ました！

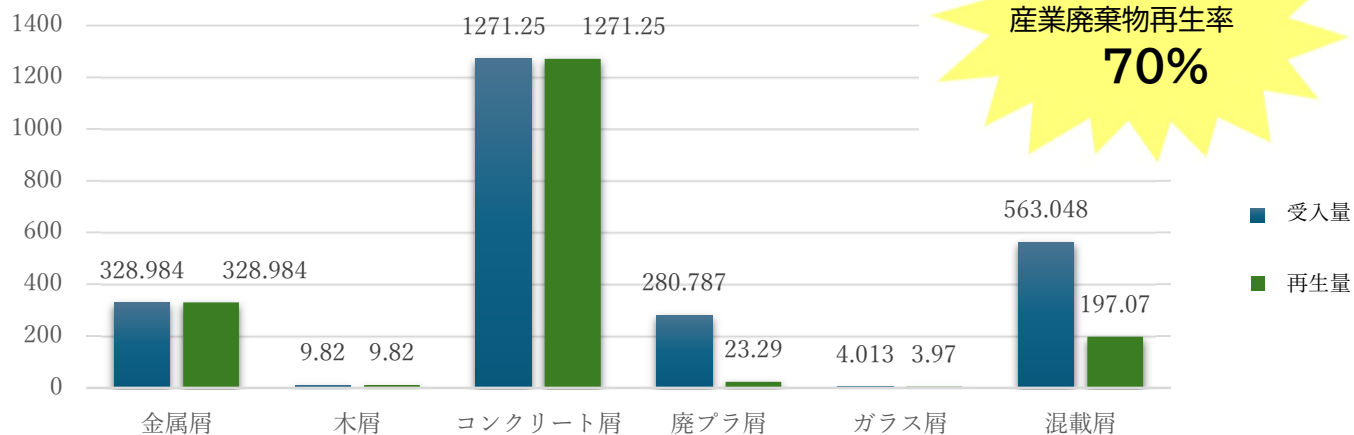
受託した産業廃棄物の実績

2024 年度（2024 年5月 ～ 2025 年4月）

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
(i)収集運搬		石膏ボード		28.71
		廃油		0.40
		廃酸・廃アルカリ		3.21
		金属・廃プラ・木・ガラス・コンクリート屑		11.51
収集運搬量合計				43.83
(ii)中間処理		金属屑	切断・圧縮	328.98
		廃プラ屑	切断・圧縮・剥離	280.79
		ガラス屑	切断・圧縮	4.01
		木屑	切断	9.82
		コンクリート屑	切断	1,271.25
		混載屑	切断・圧縮・剥離	563.05
	うち 再資源化等	金属屑	再生(売却)	328.98
		廃プラ屑	再生(売却)	23.29
		再資源化等量 小計		352.27
	中間処理合計			
(iv)中間処理後の産業廃棄物	最終処分	廃プラ屑	安定型埋立(委託)	109.47
		廃プラ屑	管理型埋立(委託)	35.43
		混載屑	安定型埋立(委託)	243.14
		最終処分量 小計		388.04
	再資源化等	木屑	破碎後、再利用	9.82
		コンクリート屑	破碎後、再利用	1,271.25
		廃プラ屑	熔融後、原材料化	262.47
		ガラス屑	熔融後、原材料化	3.97
		混載屑	再生(売却)	168.91
		再資源化等量 小計		1,716.43
		中間処理後処分量 合計		

5 月末残 1.16 t

【受入(入荷)量・再生(出荷)量】



環境経営目標

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	年度別環境目標			
		基準値 (2021年～2023 年の平均値)	2024年度 (2024年05月 ～ 2025年04月)	2025年度 (2025年05月 ～ 2026年04月)	2026年度 (中期の到達目標) (2026年05月 ～ 2027年04月)
1. 二酸化炭素排出量の削減 (Kg-CO ₂ /年)	全体	483,156.1	483,156.1	483,156.1	483,156.1
①電気使用量の削減 (KWh/年)	全体	430,366.0	430,366.0	430,366.0	430,366.0
②ガソリン使用量の削減 (L/年)	全体	3,761.0	3,761.0	3,761.0	3,761.0
③軽油使用量の削減 (L/年)	全体	125,403.5	125,403.5	125,403.5	125,403.5
2 廃棄物の削減	削減率⇒		1.0	2.0	3.0
	①一般廃棄物の削減 (kg/年)	事務所	301.0	298.0	295.0
	②中間処理後の 再資源化率向上	工場	前年率以上を 目標とする	68.6%以上	70.03%以上
3. 水資源使用量の削減 年間水資源総使用量 (m ³ /年)	全体	650.0	650.0	650.0	650.5
4. 環境保全の取組推進 ボランティア活動の実施 (回/年)	全体	10回/年	10回/年以上	10回/年以上	10回/年以上

- 企業活動が活発になると、電気・軽油・水の使用量が増加するため、これらの項目は、過去3年間の平均値を目標値としつつ、同じ資源量でさらに経営成果を上げることを目指すこととする。
- 一般廃棄物については、分別と減量の努力を続けるために、毎年1%ずつの削減目標を掲げる。
- 産業廃棄物の再資源化率は、年々向上することを目指すため、前年の数値以上を目標とする。



博多金物は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

2024 年度 環境経営計画と取組結果の評価

電気使用量の削減		評価	
 ①破砕工場の電気使用の平均化 ②エアコンフィルターの定期清掃 ③不要時の消灯の徹底	○	最も電力消費が大きい破砕工場では、今年度もデマンドによるピークカットの効果がよく表れていた。一人ひとりの節電意識も高く、日々のこまめな消灯も徹底出来ていた。	
ガソリン使用量の削減			
 ①エコドライブの徹底 (アイドリングストップ・法定速度遵守) ②リフト使用の工夫	○	エコドライブの意識が高く、法定速度もしっかりと守ることが出来ていた。リフト使用時も速度を落とすことが出来ていた。	
軽油使用量の削減			
 ①エコドライブの徹底 (アイドリングストップ) ②低速ギアの使用制限 (回数を上げない) ③運行記録作成 (走行距離と給油の確認) ④車輛の順次入れ替え	○	今年度はトラック 4 台と大型重機を新しいモデルに入れ替えたことにより、燃費が向上した。エンジンを高速回転させないような丁寧な運転も出来ていた。	
廃棄物の削減			
 【一般廃棄物】 ①段ボール・冊子類のリサイクル ②充電式乾電池の使用 ③マイコップ・マイ箸使用の推進 ④休憩室のゴミの分別の徹底	○	ダンボール・冊子類を 100%再資源化出来ている点、充電式乾電池の使用を徹底出来ている点を高く評価する。ゴミの分別はしっかり出来ているので、来年度は発生量自体を抑える工夫もしていきたい。	
	【中間処理廃棄物】 ①入荷廃棄物の分別・再資源化の促進 ②廃棄量最少を目標にした中間処理 ③マニフェストの定期確認	○	マニフェストの管理、定期確認はしっかりと出来ていた。丁寧な中間処理により、高い再資源化率を達成できた。
水資源使用量の削減			
 ①雨水貯留用ドラム缶を随時増やす ②洗車時・手洗い時の節水	○	昨年度、目標未達成であった水資源使用量目標を今年度達成できたのは、節水意識を持ち工夫して作業に取り組めたこと、手洗い時のこまめな止水など一人ひとりが意識して日々行動できたことの結果であると評価している。	
環境保全活動の取組推進 (ボランティア活動の実施等)			
 ①緑化運動 ②消防活動・地域活動に積極参加 ③草取りを定期的に行う	○	緑化運動も引き続き力を入れていきたい。ボランティア活動も社員それぞれが可能な範囲で取り組んでいって欲しい。	

2024 年度 環境経営目標の実績・取組結果とその評価

取組項目	実施区	2024 年 5 月～ 2025 年 4 月		目標の実績 ○・× 評価	取組と評価
		目標	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減(kg-CO₂)	全体	483,156.1	448,619.6	○	ほとんどの項目で目標が達成できたことを喜ばしく思う。事業活動が盛んになるほどに、電気・軽油・水資源使用量が比例して増加してしまうが、常に最大限の努力をしつつ作業にあたっていきたい。
①電気使用量の削減 総電気使用量 (kwh/年)	全体	430,366.0	321,168.0	○	工場機械の使用方法を工夫した結果であると大変評価している。日頃から社員一人ひとりが節電意識を持っていたことも良かったと思う。
②ガソリン使用量の削減 (L/年)	全体	3,761.0	1,448.70	○	エコドライブを意識し、無駄な運転を減らすなどの工夫も見られた。引き続き高い意識を持って取り組んで欲しい。
③軽油使用量の削減 (L/年)	全体	125,403.5	129,385.02	×	今年度は自社トラックによる収集運搬業務の増加に伴い軽油使用量も増加したため目標達成とはならなかった。一方で車輛の入れ替え等により平均燃費は 0.78km/l(令和5年度)から 1.09km/l に向上しているので、問題はないと考えている。
2. 廃棄物の削減					
①一般廃棄物の削減 (kg/年)	全体	298.0	211.0	○	昨年度に比べて一般廃棄物の排出量が大幅に削減した。ゴミの分別をしっかり行い、再資源化できるものは有価物として販売できた結果であると思う。
②中間処理後の再資源化率向上	工場	68.6%以上	70.03%	○	中間処理後の再資源化率の向上は従業員の技術の向上であり、この結果に大変満足している。
3. 水資源使用量の削減					
年間水資源総使用量 (m ³ /年)	全体	650.0	569.0	○	昨年度は目標未達成となっていたが、今年度は日々の手洗い時の節水や雨水使用徹底により目標を達成することが出来た。
4. 環境保全の取組推進					
ボランティア活動の実施	全体	10 回以上	11 回	○	ボランティア活動は特に地域との繋がりを大切に出来ている。今後も積極的に参加していきたい。

* 購買電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の調整後排出係数 0.347 kg-CO₂/kWh(2020 年 1 月環境省公表)を使用

* LPG を含む二酸化炭素総排出量は 450,569.63 kg-CO₂/kWh です

2025年度 環境経営目標

対象期間 2025年5月～2026年4月

二酸化炭素排出量	483,156.1Kg-CO ₂ /年	電気使用量	430,366.0kWh/年
ガソリン使用量	3,761.0/年	軽油使用量	125,403.5L/年
一般廃棄物量	295.0Kg/年	産業廃棄物再資源化率	70.03%以上
水資源使用量	650 m ³ /年	ボランティア活動	10回以上/年

2025年度 環境経営計画

取組み項目	当年度の活動計画	
(目標項目)(単位)	活動内容	実施スケジュール
1. 二酸化炭素排出量の削減 (Kg-CO ₂)	実施スケジュールの年間は、5月～翌年4月とします	
①電機使用量の削減 (総電気使用) (KWh)	①破碎工場の電気使用の平均化 ②エアコン使用の工夫 (フィルターの定期清掃・適正温度での使用) ③不要時の消灯の徹底	年間
②ガソリン使用量の削減(L)	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップ・法定速度遵守) ②営業車使用の工夫 (使用回数を減らす工夫・最短経路の利用)	年間
③軽油使用量の削減(L)	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップ) ②低速ギアの使用制限(回数を上げない) ③運行記録作成(走行距離と給油の確認) ④車輛の順次入れ替え	年間
2. 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減 (Kg)	年間
	②中間処理後の再資源化率向上	年間
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量)	①雨水貯留用ドラム缶を随時増やす ②洗車時・手洗い時の節水	年間
4. 環境保全の取組促進 (ボランティア活動の実施)	①緑化運動 ②消防活動・地域活動に積極参加 ③草取りを定期的に行う	年間

環境関連法規等の遵守結果

環境関連法規への違反、訴訟はありません。また、関係当局からの違反等の指摘もありません。下記関連法規一覧表を元にチェックしました。

当社に適用される法規等、現在まで遵守しており、遵守状況は環境管理責任者が8月・11月・2月・5月の年4回確認し、改訂があった場合は必要に応じてその都度改訂します。

2023 年5月確認	評価の結果 ○・×
1. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	○
2. 容器包装リサイクル法	○
3. 使用済み自動車の再資源化に関する法律(自動車リサイクル法)	—
4. 特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律(オフロード法)	○
5. 環境基本法	○
6. 計量法	○
7. 消防法	○
8. フロン排出抑制法	○
9. 宮崎県環境基本条例・延岡市環境基本条例	○
10. 道路交通法	○

社会貢献活動（ボランティア活動への参加等）

	活動 区分	実施日	参加人数
1. AED 講習	社外	2024 年 5月 22 日	3名
2. 地区側溝清掃	社外	6月	5名
3. 操法訓練・水門草刈り	社外	7月	5名
4. 宮崎県産業資源循環協会主催 不法投棄撲滅パレードへの参加	社外	10月16日	1名
5. INOBECH 令和6年度冬の献血 参加	社外	12月 18 日	1名
6. 消防出初め式 参加	社外	2025 年 1月 12 日	3 名
7. 河川火災の消火作業	社外	1 月 16 日	3名
8. ハンガーフリーワールドへ古切手の寄付	社内	2 月26日	4名
9. 行方不明者搜索	社外	4 月 27 日	3名
10. 産業廃棄物適正処理に関する講習会	社外	4 月 28 日	1名
11. 地区神社清掃	社外	4 月 29 日	1名

社会貢献活動等

不法投棄撲滅運動



毎年、不法投棄撲滅運動に積極的に参加しています。今年度は2024年10月に行われた産業資源循環協会の不法投棄撲滅パレードと2025年4月に行われた講習会に参加し、産業廃棄物の適正処理についての知識を深めると共に、不法投棄の撲滅を訴えました。



社員の約3分の1が地域の消防団員として活動しています。今年度も消防出初め式・AED講習に参加しました。2024年3月には消防団協力事業所の認定がさらに2年間延長。地域の有事には駆けつけます。

消防団協力
(消防出初め式参加・AED講習)



募金・寄付活動等



毎年、日本赤十字社への募金活動やNPO法人に古切手を寄付する活動を行っています。冬にINOBECHで行われた献血運動にも参加しました！



今年度は、トラックや重機の入替えや、事務所のボイラーを省エネ製品に入れ替えるなど環境に配慮した設備を整えることにも注力しました。

省エネ車輛・製品の導入



緑化運動

四季折々の花で会社周りを彩っています。今年度は、地域の保育園の子どもたちから頂いた「ひまわり」の栽培にも挑戦。元気に育っていく姿を、社員だけでなくお客様も楽しみに見守ってくださっています。



循環型社会の形成と環境保全に努めるため、これからも社員一丸となって頑張ります！

代表者による全体評価と見直し結果

昨年に引き続き、今年度もまた不安定な世界情勢の影響を大きく受けた1年であった。特に物価の上昇、光熱費や原材料費の高騰には日々悩まされ、それによる利益の圧迫も懸念していた。これらの逆境にも負けず、スクラップの発生が少ないと言われるなかでも安定した売り上げを保つことができたのは、従業員一人ひとりの頑張りの成果であると高く評価している。

昨年度、目標未達成であった水資源使用量を今年度は達成することができた。今年度も引き続き解体工事に伴うスクラップの搬入はあったが、雨水を使用するなどの作業時の工夫や社員一人ひとりの節水意識の向上がこの結果につながったのではないと思う。

リサイクルに対する世間の意識が高まり、すでに分別された状態で産業廃棄物として搬入されるものも増えている中で、昨年度に比べ再資源化率が向上した点についても、従業員の技術力の向上と努力の賜物であると高く評価している。

また、今年度は車輛や大型重機の大幅な入れ替えにも踏み切った。自社運搬の増加に伴い、軽油使用量は増加したが、燃費は向上しているので、来年度も引き続きエコドライブに努めて欲しい。

ほとんどの項目において目標を達成できているので、2025 年も引き続き高い意識を持って日々の業務にあたって欲しい。社員一人ひとりが怪我なく、健康に業務に従事し、循環型社会の実現の一翼を担って欲しいと願っている。

循環型社会の実現と環境保全のため

「一人ひとりの意識改革・新たな創造に挑戦します」

2025年6月22日
博多金物 株式会社
代表取締役

渡邊 亮介

